

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	スポーツとコミュニケーション		
英文授業科目名	Communication in Sport		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	深澤 浩洋		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>スポーツは、人間による活動ゆえコミュニケーションという契機を潜在的にはらんでいます。言葉の通じない者同士でも共にゲームを楽しむことができたり、プレイヤー同士や彼らとファンとの間に連帯感が生まれたりと、スポーツにはコミュニケーションを考える素材が豊富にあります。コミュニケーションを「関係」と捉えてみると、教育として行う体育にも、私自身と身体との間にも、コミュニケーションを認めることができるでしょう。しかしながら、いわゆる「スポーツ（科）学」において、これが主題的に取り上げられることは、これまであまりなかったといえます。関連領域が多岐に渡っていて一括りにはできないことも影響しているためか、「スポーツ」、「コミュニケーション」をタイトルに含む著書（特に日本語）が極めて少ないことがそれを物語っています。</p> <p>この授業では、一般社会におけるコミュニケーションとの共通性や相違を考え、コミュニケーションに対する認識を深めることを目指してレポート・小論文の作成を行います。スポーツにみられるコミュニケーションのあり様の一端に触れてみたいと思います。ます。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>なし</p>

【教科書等】

参考書：鷲田小彌太（1999）入門・論文の書き方，PHP新書
樋口裕一（2003）ホンモノの思考力，集英社新書

【授業内容とその進め方】

受講者30名以内で実施します。前半でスポーツとコミュニケーションに関するトピックを取り上げ、講義及びディスカッションを行います。途中で各自の調査テーマを発表し、後半では論文の作成法に触れません。

- 第1回 イン트로ダクション、課題の説明、ミニレポート
- 第2回 文献収集方法
- 第3回 関連領域についての概説：メディア・スポーツ
- 第4回 関連領域についての概説：スペクテイタースポーツ
- 第5回 関連領域についての概説：スポーツと美
- 第6回 関連領域についての概説：グループダイナミクス、リーダーシップ
- 第7回 研究テーマの発表
- 第8回 関連領域についての概説：スポーツの社会化、自我論
- 第9回 関連領域についての概説：スポーツコーチング論
- 第10回 文献の読み方
- 第11回 問題設定の仕方
- 第12回 論文の構成
- 第13回 論文執筆、レトリック
- 第14回 文献表、注の作成
- 第15回 まとめ、レポート提出方法の提示

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席及び授業における発言（30%）とレポート・小論文（70%：A4で10～12枚作成）で評価します。「4回以上欠席」した方は、評価の対象とはしません。レポート・小論文では、オリジナルな視点から書かれているか（自分の経験などに基づいて自分の言葉で書かれているか）、論理的で説得力があるか、などに重点をおきます。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【学生へのメッセージ】

初回の授業には必ず出席してください。

受講希望者が30名を超えた場合はミニレポートの内容で決定します。

スポーツをするのが好きな人、スポーツを観るのが好きな人、歓迎します。また、スポーツが考える対象でもあることに気づいてもらえることを期待しています。

【その他】